

議員団 ニュース

日本共産党平塚市議会議員団
 団長 渡辺敏光
 電話・fax 31-6431
 w*toshi@agate.plala.or.jp
 松本敏子
 電話・fax 59-4607
 mail@matsumoto-toshiko.jp

日本共産党平塚市議会議員団
 電話 0463-23-1111 (内線 2375)
 平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

日本共産党議員団の法律相談
 今回は5月9日です。
 午後1時 (要予約)

No.1023 2009年4月12日発行

国が進める妊婦健診の「無料化」その実態は?

厚生労働省 妊婦健診無料化の実態を調査

4月から、出産までに必要な14回の妊婦健診が無料で受けられる仕組みが導入され、厚生労働省は7日までに、実施主体の市町村の取り組み状況について実態調査を行ないました。

日本産婦人科医会の調査によると、全国で実際に完全無料化している市町村は1自治体しかないことがわかりました。

国は健診費用分に当たる地方交付税を市町村に配分したものの、交付税の使途は自治体に委ねられていることから、

財政難などで別の用途に支出しているためとみられ、同省母子保健課は「調査結果を分析して、必要な施策を考えたい」としています。

【4月7日付 共同通信より】

「平塚市ではどうなっているのか」を調べてみたら、非常に複雑でわかりにくいことに驚かされます。少子化を食い止め、安心して赤ちゃんを産み、育てられる環境を整える第一歩である「妊婦健診」助成の実態をみてみましょう。



上記のメールアドレスまたは電話にて、皆さんからのご意見・ご要望をお寄せください。

平塚市の妊婦健診の助成

	H9年度～H19年度まで	H20年度	H21年度
回数	名目	受診票	補助券
1		9590円	10000円
2		7180円	3000円
3		5460円	3000円
4		7040円	3000円
5		7040円	3000円
6			3000円
7			3000円
8			3000円
9			3000円
10			3000円
11			3000円
12			3000円
13			3000円
14			3000円
合計		16,770円	36,140円
			49,000円

ここでお詫びと訂正

先週の「議員団ニュース」で妊婦健診は「市民病院では1回目も無料になる」と書きましたが、ここでお詫びし訂正させていただきます。

平塚市は、H20年度当初予算の記者会見でも「5回を無料でやる」と明言しており、初回の健診費用も9560円で足りたものと考えていました。しかし昨年度、初回については11項目の検査のみ「無料」であり、その他の検査は実費となっていたのです。市内の多くの産婦人科が初回に多くの検査を行っており、1万円をはるかに超えていること、自由診療のために

それぞれの病院によって検診費用がまちまちであり、5回全部が無料ではなかったのです。

言葉ではなく、実態をしっかり調べることの重要性を思い知らされました。

そこで、さらに今年度の14回の健診が、国がいう「妊婦健診 14回の無料化」とは大きく隔たりがあることがわかってきました。国は「7割を自治体が負担し、3割を国が負担する。しかし、自治体の負担分は地方交付税で賄うようになっており、全額公費負担できるはず」と言います。

国の制度として、 本当の「妊婦健診の無料化」を！

しかし、国が言っているようにはいかない理由があります。

- 平塚市は地方交付税の不交付団体であり、国からはその分は入ってきません。
- 国は「6回目以降14回までの助成額の半分を出す」と言い、平塚市の助成総額4万9千円のうち、1万3500円(6回目以降の3000円×9回＝2万7千円の半分)が国から来ることになります。
- 1万3500円は、助成額の27%であり、国が言う3割になりません。しかし、市内の産婦人科医では2回目以降の健診が3000円というところもあり、金額を上げるとその金額に満たない場合助成券が使えず全額自己負担になってしまうため、むやみに金額を上げられません。

- それなら、初回をもっと助成してほしいと思いますが、初回が1万円スレスレの医院もあり、これ以上上げると助成券が使えなくなる医院が出てきます。
- また、国の施策が2年間の限定となっており、今後の見通しがつかない中で多くの助成はできない。

こうした多くの制約の中で、今回の「助成券」が発行されました。国は、妊婦が健康で元気な赤ちゃんを出産するために、小手先でなく「本当の無料化」を早急に進めるべきではないでしょうか！



来年の春、寺田縄にできる「花と緑のふれあいセンター」の周辺道路には、きれいな花が植えられて、桜並木とともに、そこを通る人たちをなごませてくれます。
今月末には、レンゲソウの花も楽しめることでしょう。



平塚市の特養ホームへの 待機者873人

平塚市における特養老人ホームの待機者は、H20年10月現在で873人。この中には緊急を要していない人も含まれているとはいえ、深刻な数です。

これまで平塚市は県に要望してきましたが、ようやく今年2施設が開所となりました。1か所は平塚市大島に2月にオープンした「ふじの郷」(70床規模)、もう1か所は5月に岡崎にオープンする「ひだまりの丘」(70床規模)。

平塚市の人口は平成22年度にピークを迎え、その後ゆっくりとしたペースで減少に転じると推計しています。平成19年度の人口は26万419人、高齢化率は19.6%でしたが、平成26年度には26万1813人になり、高齢化率は23.7%になるだろうと想定しています。

特に平成25年あたりから団塊の世代が65歳以上の仲間入りをすることで一気に高齢者人口が多くなると予想されており、待機者解消のため、さらに次期計画に240床の建設を予定しています。



平塚市は、平成21年度～平成23年度までの「平塚市高齢者福祉計画(介護保険事業計画[第4期])」に基づき、特別養護老人ホームの整備事業者を募集しています。

- 1 整備年度
平成24年3月末日までに開設すること
- 2 募集施設
【特別養護老人ホーム定員80人】を3施設

【建設予定地域】

四之宮(四之宮)、八幡、(西八幡・東八幡)、真土(東真土・西真土)

この地域に1施設

富士見(桜ヶ丘・上平塚・達上ヶ丘・諏訪町・中里・富士見町・豊原町・平塚)
崇善(立野町・見附町・錦町・浅間町・紅谷町・明石町・宮松町・宮の前・宝町・追分)
松原(老松町・八千代町・天沼・堤町・中堂・榎木町・馬入本町・馬入・長瀬・須賀)

この地域に2施設

事業者説明会が平成21年4月10日(金)に行われ、募集希望者はこれに必ず参加することが条件となっています。

岡崎地区に5月開所予定の
「ひだまりの丘」